

R7年度長崎版地域包括ケアシステム推進における地域意見交換会(中央部)実施報告書

共催:長崎市医師会・長崎市歯科医師会・長崎市薬剤師会・長崎県看護協会 県南支部・長崎県理学療法士協会・長崎県作業療法士会・長崎県栄養士会・長崎市介護支援専門員連絡協議会・長崎市訪問看護ステーション連絡協議会・ながさき地域医療連携部門連絡協議会・長崎市

目的

- ①医療・介護の専門職における長崎版地域包括ケアシステムの理解促進
- ②顔の見える関係づくり・多職種の連携強化
- ③連携における各職種の役割の明確化
- ④専門職の意見を踏まえた施策の検討

対象者 圏域内の医療・介護専門職

- ①連携協定締結団体のうち医療・介護に関する専門職(入退院支援に関わりのある専門職)
(市医師会/市歯科医師会/市薬剤師会/県看護協会県南支部/県理学療法士協会/県作業療法士会/県栄養士会/市介護支援専門員連絡協議会/市訪問看護ステーション連絡協議会)
- ②検討テーマに関する専門職:ながさき地域医療連携部門連絡協議会
- ③地域包括支援センター職員等

開催日時等

エリア	日時	会場
中央部	10/15(水)19:00~20:30	長崎市役所 2階 多目的スペース

・対象エリア:東長崎/日見・橘/桜馬場/片淵・長崎/西部/淵

内容

1. 開会挨拶
2. 長崎版地域包括ケアシステム/多職種のチーム化について
3. 入退院支援の症例(長崎原爆病院の症例)

「50代乳がん患者

退院決定後状態変化あり、訪問診療(在宅医)導入・在宅調整。自宅で看取りとなった。」

ファシリテーター:長崎原爆病院 医療ソーシャルワーカー 深堀 章子

(1) 医療ソーシャルワーカーの立場から

長崎原爆病院 医療ソーシャルワーカー 梶原 かえで

(2) 訪問看護師の立場から

長崎原爆病院訪問看護ステーション 看護師 峰 しのぶ

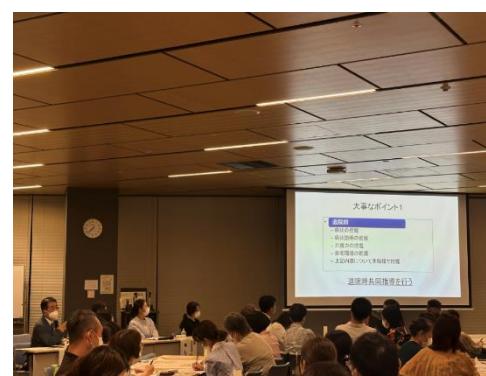
(3) ケアマネジャーの立場から

ケアプランセンターみなつき ケアマネジャー 福留 登貴子

(4) かかりつけ医の立場から 奥平外科医院 医師 奥平 定之

(※ ライン薬局 薬剤師 水崎 直文 から 会場からのコメントあり)

(5) 講師 4人での討議



4. 意見交換会

テーマ「入退院支援の中で困ったことや悩んだこと、工夫していること」



参加者数

(人)

職種		10/15(水)当日	
医師	病院 診療所・クリニック	2 12	14
歯科医師（診療所）			1
薬剤師			
	病院 薬局	0 6	6
看護師			
	病院 診療所・クリニック 訪問看護ステーション まちんなかラウンジ	7 4 2 3	16
理学療法士			
	病院 介護事業所 長崎市在宅支援リハビリセンター	5 1 3	9
作業療法士			
	病院 長崎市在宅支援リハビリセンター	5 1	6
言語聴覚士（長崎市在宅支援リハビリセンター）			1
管理栄養士（栄養士会）			4
医療ソーシャルワーカー			12
社会福祉士			
	病院 地域包括支援センター	4 3	7
主任介護支援専門員			
	事業所 まちんなかラウンジ 地域包括支援センター	2 1 3	6
介護支援専門員			
	事業所 地域包括支援センター	9 0	9
保健師			
	中央総合事務所 東総合事務所 地域包括支援センター	5 2 1	8
その他(相談員・事務職)			2
医師会事務局			2
行政			9
計		112	